

実季の跡を依竹虎中將義宣平氏常陸清和源氏從四位少將

義宣より云代目なりに下秋田河辺平康雄緒山本郡

の王よ命をこれ二十万石を領する日本

事跡考に秋田城は別々都會とあり

秋田

追考秋田牧主初領は石田三成佐和山落

城の後依竹義宣羽州秋田の王よ命を

日本逸史才十三卷延暦二十三年十一月

癸巳出羽国言秋田城建置以來四十四年

大地荒埔不宣孤居スルニ北隅無鄰相救伏望永

從停廢云々

け又年を以るに南城を建あふに十七代

廢帝天平宝字五年なるべし延暦二十三

年より四十一年あは天平宝字五年に阿

ふりてあはれ引傳へ後日本紀天平五年十

二月の条下に出羽柵遷置於秋田村高清

水岡といふは城地の企ありて假し柵を接し

天平宝字五年に至る城地然し一りりあや

秋田今の城地勢なり上右いふ法ありと云り

云りりを城地とよみ一なるは今を名なるより天